

今日のトピック 最近の米国の債券市場 長期金利は一進一退の推移となる見通し

ポイント1 国債利回りは比較的小動き 年明け後は大きな波乱材料なし

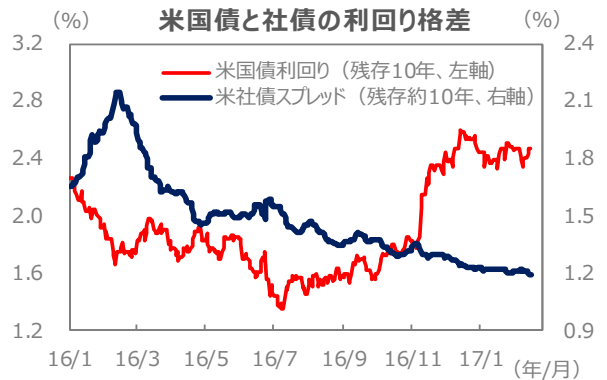
- 米国10年国債利回りは、2016年11月の大統領選でトランプ氏が勝利したため、公約の財政支出拡大や減税による景気回復期待を織り込み、12月中旬までは上昇しました。その後は年明けにかけて一旦低下し、足元では一進一退で推移しています。財政拡大や減税実施には時間がかかる見通しで、米連邦準備制度理事会（FRB）による利上げも緩やかなペースとなるとの見方などが、その背景です。
- 直近2月15日の10年国債利回りは2.49%となり、昨年末の2.44%と概ね同水準となっています。

ポイント2 社債は堅調に推移 国債との利回り格差は一段と縮小

- 景気回復や順調な企業業績に加え、物価上昇率も落ち着いて推移しています。また、世界経済・政治情勢や金融市場に大きな波乱がなく、リスク回避の動きも起っていないことなどから、社債スプレッド（国債と社債の利回り格差）は縮小傾向を辿りました。
- 2017年以降でみると、債券の中では、最も利回りの高いハイイールド債券が良好な成績となっています。

今後の展開 国債利回りは一進一退継続へ

- 政府による大規模な財政支出拡大や減税などが早期に決まるようであれば、国債利回りには上昇圧力がかかることが考えられます。しかし、トランプ大統領が公約したような大規模な景気刺激策には米国議会での審議長期化も予想され、加えて、FRBによる利上げ速度も緩やかと見込まれるなか、金利は一進一退での推移になる見通しです。社債については、相対的に高水準の利子収入が得られる資産として人気が高く、引き続き資金流入が続く見込みです。

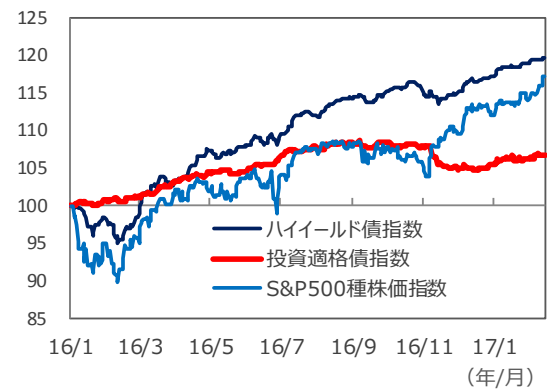


16/1 16/3 16/5 16/7 16/9 16/11 17/1 (年/月)

(注1) データは2016年1月1日～2017年2月15日。
(注2) 米社債スプレッドはBloombergパークレイズ米国社債指数ベース。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(ポイント) 米国の社債・株価指数



(注1) データは2016年1月1日～2017年2月15日。
(注2) 債券指数はいずれもBloombergパークレイズ債券指数。2016年1月1日 = 100として指数化。指数は株式、債券ともトータル・リターン指数。トータル・リターンは、価格の値上がり益に再投資された利子・配当を加えた総合的な収益。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年2月 2日 米国の金融政策 (2017年2月)
2017年1月30日 米国のGDP成長率 (2016年10-12月期速報値)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。